



【講師プロフィール】島村輝(しまむら・てる)教授。1957年、東京生れ。専門は日本近代文学。現在女子美術大学教授。東大、早稲田などでも教壇に立つ。小林多喜二国際シンポジウムのコーディネートを担当。



本書は、小樽商科大学(旧小樽高等商業学校)の卒業生、小林多喜二(1905~33)の代表作『蟹工船』の小説とマンガの読書を通じて、これからの日本社会のあり方を深く考えるという趣旨で公募した「Up to 25『蟹工船』読書エッセーコンテスト」(小樽商科大学と白樺文学館多喜二ライブラリー共催)から生まれたエッセー集です。新書判、160ページ。定価(本体467円+税)とハンディーな体裁で、中学生にも読みやすいようルビ付き。中身は現代青年たちの肉声を満載し、必読の一冊に仕上がりました。

ぼくらの「蟹工船」はどこに

むかっているのか？

大好評の『私たちはいかに「蟹工船」を読んだか』(企画 = 白樺文学館多喜二ライブラリー、発売 = 遊行社)の読者交流会です。このコンテストの選考委員長を務めた島村輝先生を囲んで、コンテスト受賞者、応募者を中心としたライブ・トーク・セッションとなります(35才以下が対象)。

●日時 = **6/17** 午後6時30分~

●場所 = BABACHOP(ババチョップ)シアター

JR「高田馬場」駅から徒歩4分 新宿区下落合1-7-11 栄新ビル1F

●入場料 1,000円(『私たちはいかに「蟹工船」を読んだか』

490円の代金を含む。本を持参いただければ500円引き。)

※事前予約が必要です。参加申し込は、eメール saku0326@pdx.ne.jp 090-5519-9273(佐藤)へ。

●主催 = Prof. Shima 公開授業 in 高田馬場実行委員会

●協力 = 白樺文学館多喜二ライブラリー



<第一部> 18:30-20:00 映画上映

生誕100年記念映画「時代を撃て・多喜二」上映

<第二部> 20:00-21:30 ライブ・トーク・セッション

いまなぜ「蟹工船」ブームなのか!



BABACHOPシアターは、JR山手線と地下鉄東西線が止まる「高田馬場駅」から徒歩4分。

客席は、ひな壇形式約50席。スクリーンは150インチ・Dolby5.1で大迫力。会場へは、栄通り商店街を通り抜け、橋を渡ると富士大学、富士大学を過ぎて道なりに進みます。セブンイレブンが見えたら、すぐそばです。